

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	88人	算数	88人	理科	88人
第5学年	国語	79人	算数	79人	理科	79人

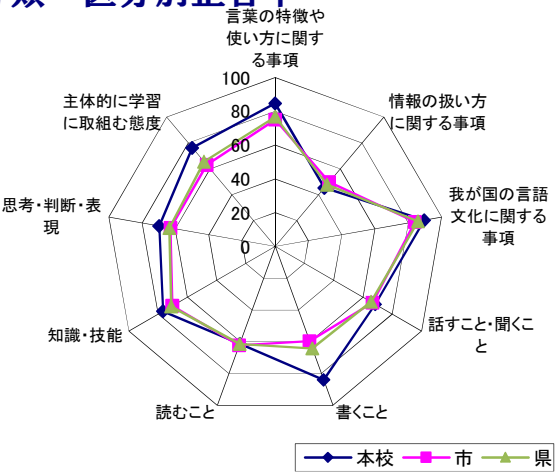
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	84.7	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	45.3	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	89.5	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	68.4	66.5	65.5
	書くこと	84.0	59.6	64.2
	読むこと	61.2	62.2	61.5
観点	知識・技能	76.6	70.2	71.1
	思考・判断・表現	69.7	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	76.3	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

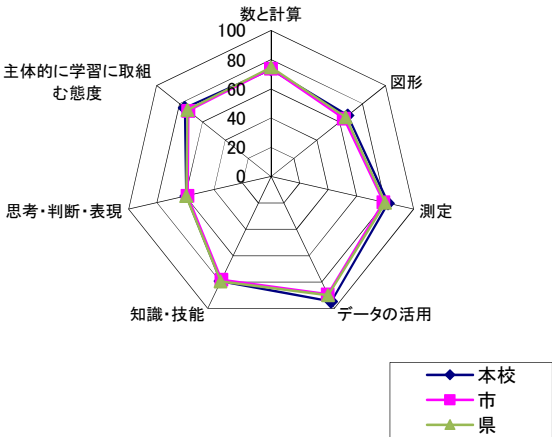
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・領域の正答率は84.7%で、県よりも8ポイント高い。 ○漢字の読み書きの問題において、正答率が平均して市や県より約4ポイント高くなっている。 ○言葉についての問題において、平均して正答率が県よりも約7ポイント高くなっている。	・漢字の読み方の定着のため、音読や読書の推進やドリル学習を図っていく。 ・語彙力を高めるため、日々の授業の中で短文づくりを行っていく。
情報の扱い方に関する事項	・領域の正答率は45.3%で、県よりも2.5ポイント高い。 ○中心となる語や文を見つけて要約する問題では、正答率が55.8%で、県よりも0.4ポイント高い。	・日々の授業の中で、語句の意味を国語辞典を使って確認させる活動を行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	・領域の正答率は79.7%で、県と同程度である。 ○漢字のへんやつくりを理解する問題では、正答率が89.5%で、県よりも3.6ポイント高い。	・新出漢字の学習の際は、読み方や筆順のほかに、部首やその意味などを多面的に扱うようにする。 ・定期的に漢字練習帳やドリル学習で既習漢字の書き取り問題に取り組ませ、定着を図る。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は68.5%で、県よりも2.9ポイント高い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、正答率が95.3%と県より5.1ポイント高くなっている。 ○互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる問題では、正答率が57.0%と県よりも6.2ポイント高くなっている。	・「話すこと・聞くこと」を扱う単元において、発表を聞くだけでなく、聞き取ったことをまとめる力や、自分の考えと比較しながら聞き取る力など、育てたい力を明確にして活動に取り組ませることで、さらに聞く力を高めていく。 ・説明文の学習においても、話の要点を探して要約する活動に取り組ませ、考えをまとめる力をさらに高められるようにする。
書くこと	・領域の正答率は84.0%で、県よりも19.8ポイント高い。 ○2段落構成で文章を書く問題では、県よりも32.8%高い。	・短文づくりや文章全体を要約する学習を繰り返し行っていく。 ・読書の記録など作文の学習を引き続き行い、書く力をさらに高められるようにする。
読むこと	・領域の正答率は61.2%と県と同程度である。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題では、正答率が83.7%で、県よりも5.9ポイント高い。 ●叙述を基に段落の内容を捉える問題では、正答率が57.6%で、県よりも10.5ポイント低い。	・説明文などでは、段落の内容を捉えることができるように、中心となる言葉を用いて小見出しをつけたり、文章全体を要約したりする学習を繰り返し行っていく。 ・短い時間で文章を読むことに慣れさせるために、朝の学習等で類似問題に取り組ませたり、読書の習慣付けを図ったりしていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.3	73.8	74.8
	図形	67.0	63.7	65.3
	測定	82.1	78.9	80.1
	データの活用	94.8	89.3	90.0
観点	知識・技能	79.4	78.3	79.5
	思考・判断・表現	59.5	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	75.4	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

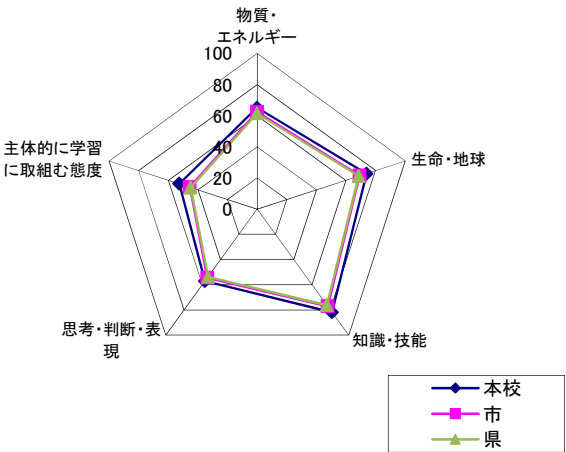
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、73.3%で、県よりも0.5ポイント低い。 ○数の相対的な大きさについて理解しているかを問う問題では、正答率が91.9%で、県よりも8.1ポイント高くなっている。 ●除法(余りあり)を適用して、文章問題の正しい問題を答える問題では、正答率が61.6%で、県よりも15.1ポイント低くなっている。 ●2けた×2けた=4けたの計算では、正答率が58.1%で、県よりも8.7ポイント低い。	・かけ算、わり算ともに、単に計算ができるだけでなく、なぜそのような計算になるのかをよく考える授業を展開していく。 ・問題に適した図や表、線分図を使って、問題の解き方を考えさせる場面を多く取り入れ、理解へとつなげていきたい。
図形	・領域の正答率は、67.0%で、県よりも1.7ポイント高い。 ○円の直径について理解しているか答える問題では、正答率が94.2%で、県よりも8.5ポイント高くなっている。	・今後も、図形の学習では、図形の特徴について確認し、なぜ二等辺三角形になるのか理解を深めたうえで、作図する問題に繰り返し取り組ませることで、知識の定着を図る。
測定	・領域の正答率は、82.1%で、県よりも2.1ポイント高い。 ○1分=60秒の関係を答える問題では、正答率が82.6%で、県よりも5.5ポイント高くなっている。 ○身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使って表す問題では、正答率が75.6%で、県の正答率よりも8.0ポイント高くなっている。	・単位に関しては、機械的に暗記させるのではなく、単位の意味や原理を理解させていく。 ・単位換算を理解できるように、重さについて、机や1円玉など身近なものを教材とし、具体物を用いながら理解を深めさせていく。 ・距離と道のりの違いの意味を地図などを使いながら実感させていく。
データの活用	・領域の正答率は、94.8%で、県よりも4.8ポイント高い。 ○データの活用に関する問題では、正答率がそれぞれ95.3%、94.2%で、県よりも5.1ポイント、4.4ポイント高い。	・問題文を正確に理解したり、日常の場面に結び付けて思考したりする学習を今後も継続していくことで、データ活用能力をさらに伸ばしていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.2	62.5	61.5
	生命・地球	73.9	69.2	68.6
観点	知識・技能	81.9	77.2	76.3
	思考・判断・表現	57.1	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	52.6	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・領域の正答率は65.2%で、県よりも2.7ポイント高い。 ○電気の通り道に関する問題の正答率は、それぞれ83.7%、79.1%、60.5%で、県よりも10ポイント、10.5ポイント、3.1ポイント高い。 ○素材により磁石の性質になるかを問い、その理由を記述する問題では、正答率が37.2%と低いですが、県よりも12.1ポイント高い。 ●磁石の極に関する問題では、正答率が30.2%で、県よりも12.9ポイント低い。	・「磁石の性質」については、全般的に正答率が低かった。そこで、実験結果から考察したことを丁寧におさえることで理解を深めさせるとともに、実生活の具体的場面で活用させるようにする。 ・用語を単に覚えるだけではなく、覚えたことを応用できるように、身近な事例を挙げるとともに、学習したことが生かされていることが理解できるようにする。 ・実験を行う際、予想や考察、結果のまとめなどの指導を丁寧に行い、内容の定着を図る。
生命・地球	・領域の正答率は73.9%で、県よりも4.7ポイント高い。 ○植物の育ち方に関する問題の正答率は、それぞれ90.7%、93.0%、53.5%で、県よりも4.3ポイント、8.0ポイント、4.7ポイント高い。 ○昆虫の体のつくりに関する問題の正答率は、それぞれ94.2%、76.7%で、県よりも8.8ポイント、6.4ポイント高い。 ●影のでき方に関する問題では、正答率はそれぞれ40.7%と54.7%であり、県よりも5.2ポイント、5.7ポイント高い。	・基礎的な用語を丁寧におさえ、知識の定着を図る場面をこれからも継続してつくっていく。 ・日常生活で体験したことを知識として定着させるために、生活と結び付けた実験や観察の方法、考察を指導する。 ・太陽の動きと影のでき方については、実験結果を確実におさえるとともに、実体験と結び付けた考察を行うことで、太陽の動きと影のでき方の関係を理解できるようにさせる。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、73.2%であり県よりも2.4ポイント高い。また、「家で学校の授業の復習をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、73.3%であり、県よりも10ポイント高い。学校で学習したことを家庭学習で復習することが習慣化されていることが分かる。学校内で、家庭学習の取り組み方について共通理解を図って実践している成果が表れている。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の質問に肯定的に答えた児童の割合は、74.4%で、県よりも8.2ポイント高い。さらに、「できるだけ自分一人の力で解決しようとしている」の質問に肯定的に答えた児童の割合は84.9%と高く、自分でできることは自分でしたいという、物事に対して自主的に取り組もうとする姿を感じ取ることができる。自分でできた、成し遂げられたという自信をつけ、追究する面白さを味わわせていきたい。

○「授業を集中して受けている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の質問に肯定的に答えた児童の割合は、どれも90%を超えている。相手を思いやる心が育ち、友達と良好な人間関係を築くことができる。学校全体で、認め・励ます教育や思いやりの心を育成する取り組みをしてきた成果が表れている。

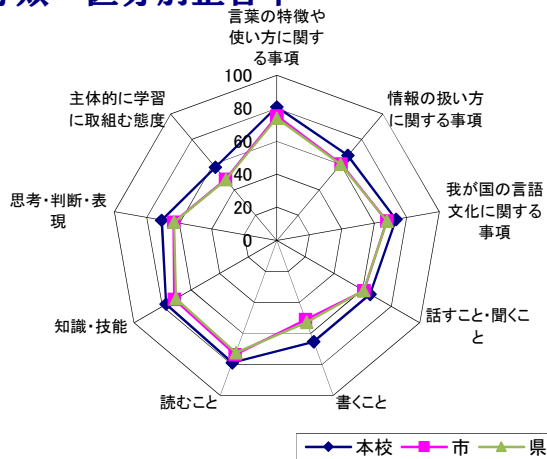
●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくや家庭教師もふくむ。)」の質問において、「30分より少ない」、「全くしない」と答えた児童は24.5%と、県よりも9.5ポイント多かった。学習に取り組む目標時間40分を確保できるよう、宿題や自主学習について校内で検討し、家庭との連携を図って進めていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は66.2%で、県よりも4.4ポイント高いが、過半数の児童が自分の考えを文章化することを難しいと感じている。国語や道徳の授業だけでなく、各教科においても考えを記述する時間を確保したり、学校行事等の振り返りを書いたりすることで、自分の考えを文章にして表現する力を伸ばしていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	80.9	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	67.1	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	73.3	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	65.3	61.0	60.7
	書くこと	65.3	51.2	52.8
	読むこと	78.9	73.7	72.4
観点	知識・技能	77.4	71.7	70.6
	思考・判断・表現	70.8	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	57.9	48.2	48.1



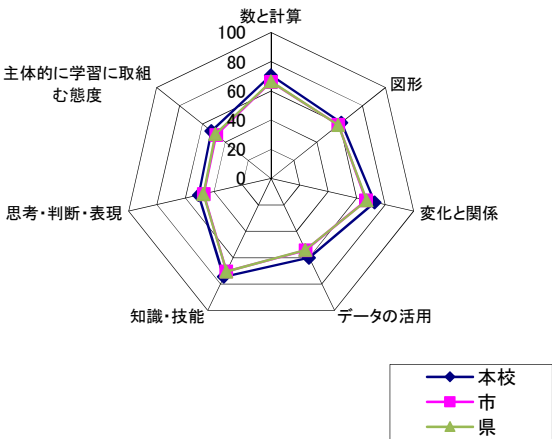
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	・領域の正答率は80.9%で、県よりも6.8ポイント高い。 ○漢字の読みの問題において、それぞれの正答率が98.7%、100%、97.3%で高くなっている。 ○漢字の書きの問題において、「札」「覚める」では、それぞれの正答率が73.3%、94.7%で、県よりも8ポイント、22ポイント高くなっている。 ●連用修飾語の問題については、正答率が22.7%で、県と同程度である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字チャレンジデーの取組で、漢字の定着を図ってきた成果が出ていると考えられる。今後、正答率が低い漢字を取り上げ、引き続き取組を進めていく。 ・日常生活の具体的な場面を取り上げ、修飾語をより身近なものとして、理解・活用していけるようにする。
情報の扱い方に関する事項	・領域の正答率は60.3%で、県よりも6.9ポイント高い。 ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している問題では、正答率が80.0%で、県よりも15.8ポイント高い。 ○漢字辞典の使い方の問題では、正答率が76.0%で、県と同程度である。	・説明文を中心に段落の構成やその働きについて考える学習に力を入れてきたことが、成果につながったと考えられる。今後も継続して説明文を中心に情報を読み取ったり、比較したりする活動を取り入れていく。また、事例を挙げて説明する活動をさせながら情報を効果的に扱っていけるよう指導する。 ・単元に応じて使う場面を意図的に設定し、漢字辞典の使い方に慣れさせてけるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	・領域の正答率は73.3%で、県よりも5.5ポイント高い。 ○ことわざの意味を問う問題では、正答率が73.7%で、県よりも5.5ポイント高い。	・児童が進んでことわざなどの言葉を調べる機会を設け、児童同士の学び合いを通して、より多くのことわざや言葉に触れられるようにする。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は65.3%で、県と同程度である。 ○話し手の工夫を捉える問題では、正答率が92.0%で、県と同程度である。 ○意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる問題では、正答率が50.7%で、県よりも8ポイント高くなっている。	・話を聞かるときに、メモを項立てしたり箇条書きしたりして、話し手の意図を捉えて比べることができるよう指導していく。今後も、社会の校外学習や総合的な学習でのインタビューなど、他教科においても、機会を捉えて指導していく。
書くこと	・領域の正答率は65.3%で、県よりも12.5ポイント高い。 ○指定された長さ、2段落構成で文章を書く条件では、それぞれの正答率が、77.3%、68.0%で、県よりも15.3ポイント、15.0ポイント高い。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く問題では正答率が65.3%で、県よりも約10ポイント高くなっている。	・「○文字以内で書く」や「○○について書く」というように、指定された形での短作文の練習を行ってきたことで、成果が表れたと考えられる。今後、条件に合わせて書けるように、繰り返し短作文を書く活動を取り入れていく。
読むこと	・領域の正答率は、78.9%で、県より5ポイント高い。 ○叙述を基に段落相互の関係を捉える問題では、正答率が、86.7%で、県よりも9.5ポイント高い。 ○登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える問題では、正答率が52.0%で、県よりも7.7ポイント高くなっている。	・読書量の確保、説明文の読み取り、朝の学習でプリントを使って習熟を図ってきた成果が表れたと考えられる。今後も継続して、読書の推奨、丁寧な説明文の読み取り、習熟プリントの活用を図っていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.7	66.1	66.4
	図形	61.5	58.9	58.8
	変化と関係	72.8	66.6	67.0
	データの活用	60.0	54.4	54.2
観点	知識・技能	74.6	70.4	70.6
	思考・判断・表現	50.8	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	52.2	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

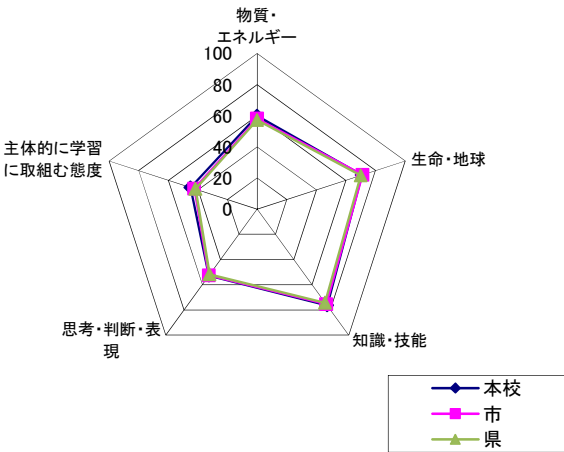
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は70.7%で、県よりも4.6ポイント高い。 ○基準量を求める除法の文章問題を表した図を選んだり、2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを比べたりする活用型の問題では、正答率が県よりも10.1ポイント高い。 ○億と兆・概数の表し方が県よりも7.4ポイント高い。 ●わり算、計算のきまり、小数、分数の無回答率が10%を超える高い値を示している。 ●分配法則の正答率が45.3%で、県よりも2.8ポイント低くなっている。	・練習問題や個別指導を充実させ、わり算、計算のきまり、小数、分数、分配法則などの基礎的な力を引き続き高めていく。 ・問題に適した図や表、数直線を使って、問題の解き方を考えさせる場面を多く取り入れ、理解へとつなげていきたい。
図形	・領域の正答率は61.5%で、県よりも2.6ポイント高い。 ○角の大きさの問題において、それぞれ正答率が88.0%、80.0%で県よりも3.3ポイント、5.3ポイント高い。 ●面積の単位の関係では、正答率が22.7%と県や市より高くなっているが、過半数の児童が見通しをもてておらず、昨年と同様の課題が見られる。	・作図の際、三角定規やコンパス、分度器の使い方を丁寧に指導し、正確に図形をかくことができるようにする。 ・すぐに問題を解くのではなく、答えの見通しをもつ時間や、予想と答えに注目した振り返りを書く時間を確保し、量感覚を高めていくようにする。 ・物の面積に対して正しい見通しをもてるように、授業で学習問題について見通しを立てたり、身近なものの面積についても同様に予想したりする活動を取り入れていく。
変化と関係	・領域の正答率は72.8%で、県よりも5.8ポイント高い。 ○2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べる問題では、正答率が77.3%で県よりも15.0ポイント高い。 ●変わり方の関係を式にする問題は、正答率が42.7%で、県よりも9ポイント低くなっている。また無回答率も9.3%で高い。	・普段から算数の学習の中で気付いたことを表現する場面を設けることで、2つの事柄を関係づけて考える力を身に付けさせていく。 ・応用問題では場面を細かく区切りながら確認することで、問題場面や条件を正しく読み取れるよう指導する。
データの活用	・領域の正答率は、60.0%で、県よりも5.6ポイント高い。 ○二次元表を読み取る基礎型の問題は、正答率が81.3%で県よりも2.7ポイント高い。 ●折れ線グラフと表に関する問題では、正答率が42.7%で県よりも9.0ポイント低い。	・教科書の基礎的問題を使って、「データから項目ごとに読み取る」「項目を組み合わせる」という一連の考え方の定着が図れるようにする。 ・考えたことを文章に表したり、発表したりする場面を今後も設定し、算数への苦手意識を軽減していく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.9	58.1	57.2
	生命・地球	70.6	71.1	70.0
観点	知識・技能	76.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	52.8	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	45.0	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○領域の正答率は59.9%で、県よりも2.7ポイント高い。 ○温度による空気の体積変化に関する設問での正答率及び、沸騰の実験の際に沸騰石を入れる理由を問う設問において、正答率が85.3%で、県よりも8ポイント高い。 ●温度によるものの体積変化を利用した身の回りの道具について問う設問の正答率が37.3%で、県よりも10ポイント低い。 ●水の量と沸騰するまでの時間の関係を問う設問の正答率は26.7%と低く、無回答率も20.1%と高い。 ●水の状態変化について、湯気の状態を問う設問の正答率は13.3%と低い。	・学習内容を生活と結び付けて考え、身近な事象を科学的な知識で捉え直す活動を単元の終末に取り入れる。特に身近な道具について、実際に道具を使ってみたり、その仕組みや原理を考えたりする時間を設けるようにする。 ・水の量と沸騰するまでの時間の関係を考えるには、エネルギーの見方が必要である。3年生時からエネルギーの見方を働かせて説明する機会を積み重ね、4年生の物質に関する一連の単元でも、粒子の見方とエネルギーの見方を取り入れて説明する活動を取り入れていく。 ・湯気は気体であるという誤概念は、強固で転換しにくいとされている。粒子の見方を働かせ、なぜ気体は目に見えないのかを考えたり、状態変化を粒子モデルで考えたりする活動を取り入れることや、目に見えない水蒸気存在を確かに感じ、湯気との違いを考えられるような実験を複数取り入れることで、湯気は液体であることを実感を伴って理解できるようにする。
生命・地球	○領域の正答率は70.6%で、県よりも0.6ポイント高い。 ○サクラの1年間の様子を季節と結び付けて捉える設問の正答率が80.0%で、県よりも10.4ポイント高い。 ○ツバメが渡り鳥であることを理解しているか問う設問の正答率が94.7%で、県よりも17.5ポイント高い。 ●方位磁針の使い方を問う設問の正答率は46.7%で、県よりも13.4ポイント低い。 ●記録温度計の波形から天気を推測する設問の正答率は30.7%と低い。 ●月の動きの決まりをもとに月の位置を推測する設問の正答率は17.3%で、県よりも6.3ポイント低い。	・ツバメが渡り鳥であることを理解している児童がきわめて多い理由として、演劇鑑賞教室で「幸福の王子」を観たことが考えられる。そこで、知識を定着させるために、ドラマや絵本の場面と関連付けた話を取り入れるなど、興味関心を高め、自分事として捉えられるような教材を用いた学習を行う。 ・社会科での学習や冒険活動教室のオリエンテーリング等、あらゆる場面を捉え、方位磁針の正しい操作を復習する。また、できるだけ一人一つ操作できるよう方位磁針を用意する。同様に、他の道具の操作を学習する際も、できるだけ一人ずつ実施できるよう、十分な数の教材を確保する。 ・晴れた日は気温の変動が大きく曇りや雨の日は小さいという決まりや月の動きの決まりをただ知識として覚えるのではなく、実際に繰り返し観測して確かめ、様々なパターンから決まりを見出すようにする。その上で、なぜそうなるのかを考えさせ、本質的な理解ができるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は77.3%で、県よりも10.6ポイント高く、自主学習に進んで取り組む児童が多い。学校全体で、めあてと振り返りを意識した自主学習のやり方を指導したり、家庭学習強化週間等で、保護者に取組を依頼したり、学校と家庭が連携して取り組んできた成果が表れている。今後も、家庭との連携を大切にしつつ、児童の努力の過程や頑張りをしっかりと見取り、称賛していく等のほめる指導を推進していきたい。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は94.6%で、多くの児童がめあてを達成するために真剣に考えながら授業に臨んでいる。学校全体で、めあての明確化を進めてきた成果が表れている。今後も、児童の興味・関心に基づいためあての設定や児童が「やってみよう」と思える活動の工夫などを通して、児童の主体性を大切にした授業が実践できるよう指導方法を工夫していきたい。

○「学校のきまりを守っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は97.4%で、多くの児童が規範意識をもって学校生活を送っている。児童は「雀央スタンダード」を活用しながら、その場に応じたルールやきまりをきちんと理解し、よく考えながら行動している姿が見られる。今後も、児童がきまりを守り、安心して学校生活が送れるよう、児童の日々の様子に目を配り、よさを伸ばす指導を推進したい。

●「しよ来(しょうらい)のゆめや目標をもっている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は82.7%で、県よりも3.8ポイント低い。今後はキャリアパスポートを活用しながら、自分の特性や頑張っていること、努力できたことなどを見つめ直す機会を増やし、将来の夢や生き方、自分の可能性について考えが深められるよう、個に合わせた指導の充実を推進していきたい。

●「自分には、よいところがある」の質問に肯定的に回答した児童の割合は77.3%で、県よりも1.9ポイント低く、自己肯定感が低い傾向にある。自分のよさに児童自らが気付けるよう、日々の学習活動や学校生活において、友達のよさを認め合う場面を作ったり、自己の頑張りを振り返ったりして、学級の中でほめる・ほめられる体験を多く取り入れていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力向上に向けた一人一台端末の活用の工夫	調べる、まとめる、伝える学習や学習内容の習熟における活用	国語の「書くこと」の領域に関して、領域の正答率は県や市よりも高い。 質問紙の調査結果から、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」に対する肯定的回答率が県や市よりも高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙の調査結果から、勉強していて「不思議だな、なぜだろうと感じることがある」に対する肯定的回答率が県や市よりも低い。	学習意欲を高めるための一人一台端末の活用の工夫	児童の生活に結び付けたり、視覚に訴えたりする資料を提示するなど一人一台端末を活用し、学習意欲が高まるような課題提示の工夫をする。また、授業で、自分の考えや調べたことを提示しながら話し合う活動を意図的に位置付ける。